

広報よもぎた

内容

- 青少年健全育成シリーズ①……………2～5
子ども会活動とは
- 昭和55年度予算のお知らせ……………6～7
- 新任の先生を紹介します……………8
- 今年の新入学児童は68人……………9
- 談話室・ヤングメッセージ
郷土の歴史……………10～11
- 戸籍の窓口・農作業協定賃金……………12

NO.132



≡ 整列！バスがくるぞ～ ≡

4月・5月

合併号

1980

朝、スクールバスを待つ子どもたち。バスが来るまでのわずかな時間さえ、子どもたちには遊びの時間。ジャンケン、ゴムはね、かけっこ。そして何やらポケットから取り出して得意顔。それが、たとえ小石、ビー玉、こわれたネジであっても、そっと取り出して見せたくなる宝物……………。

しかし、ポケットの中味は見えるけど、心のポケットには何が入っているのだろう。言いかけて口をつぐんだ言葉。小さくたたんだテスト用紙。おとなへの不信や悲しみが、もしや小さくたたまれて入っているのでは？見えない心のポケットもつくらってやろう、お田さん。

青少年健全育成
シリーズ……①

子ども会活動とは……

見直したい地域社会の子ども教育

青少年の健全な育成を図るとともに、これを阻害する要因を排除・是正することをねらいとして、昨年十二月に「青森県青少年健全育成条例」が制定されました。

条例の中には市町村の責務として「その地域の状況に応じた青少年の健全育成を図る施策を実施しなければならない。」とうたつています。また、県民の責務のひとつとして「近隣住民は、互いに協力し、青少年を健全に育成するように努めなければならない。」ともうたわれています。

このように、子どもを取り巻く環境や教育の問題が、今ほど話題になったことはあまり例がありません。これらの現象は、私たちの社会が大きな曲がり角にさしかかっている証拠とも考えられます。

教育といえば、すぐに学校教育を思い浮かべますが、学校は教育の三分の一を受けもっているにすぎません。子どもはあらゆる場面で教育されるのであつて「家庭」「地域」がそれぞれ三分の一ずつ、果たすべき役割をもっています。

最近特にさげばれているのが、社会教育や生涯教育。しかし、社会教育という言葉のない昔から、ちゃんとその役割を果たしてきたものが、私たちの地域社会の中にあつたのではないのでしょうか。それはムラ人からムラ人へ行われる文化の伝承の中にまた、子どもたちを取り巻く日常社会生活の中にそれがあつたと思われまます。たとえば、駄がし屋の母ぢやは、よその子であ

つても行儀の悪い子やムダづかいをする子をしかつたし、みんなが見守る中で、子どもたちは育つてきたのだと思えます。今回は、地域に深く根をおろして活動を続ける子ども会を通して、地域社会がどのように子どもたちをはぐくむべきか、その役割を共に考えましよう。

「子ども集団」の教育的効果

昔、ムラでは小正月風習のひとつとして、「カッパカッパ」という子どもたちの手で行う行事があつたと聞く。

これは、年長の子どもを頭ににした部落の子ども集団が、大根やもちでつくつた人形をもつて、夜中にムラ中を訪問してまわり、「カッパカッパ」の口上をのべるのだという。訪問をうけた家では、口上が終わりに、アッタラだもちや祝儀を子どもたちに与え

なければならぬという、素朴でちよびりユーモアのあつたムラの風習である。

自分のしまつがひととおりできるようになった子どもたち

が、幼少年集団の仲間に入つて「カッパカッパ」のようなムラの共同体行事を担う。そこはもう子どもたちの世界であり、子どもたちのリーダーがいて指揮をとる。そして仲間の年齢や力量に応じて互いの役割を分担しあう。

このような共同作業をととして、子どもたちはみんなと力を合わせてゆくにはどんな心構えが必要なのか、仲間をいたわる心とは、本当の勇氣とは、思いやりとはどんなことかを自然に会得してきたのではないのでしょうか。そしてそれは、地域の伝統的教育方法のひとつであつたと考えられます。

時代はかわつても、そこから学ぶべきものがあるならば今にそれを生かした地域の子ども教育を考える必要があります。



混血の擦文土器

写真の擦文土器は、今年の四月三日の東奥日報に掲載されたもので、まだ記憶に残っている方が多かろうと思います。

この土器は、蓬田村阿弥陀川の八戸倉助氏所有の畑から出土したものです。擦文文化を語るにはこの土器をぬきにしてはできないほど、多くの文献、論文に引用されています。

青森県立郷土館では、テーマが「よみがえる奈良平安時代」として特別展示会が催されています。(六月一日まで)その一角に、わが村出土の擦文土器が展示されています。他の地域から出土した擦文土

器も展示されているのですが、美しさや造りにおいて、わが村出土の擦文土器にはかないません。

擦文土器、擦文文化とは何なのでしょう。

早稲田大学の桜井清彦教授は、次のように述べています『縄文土器や弥生土器という言葉はもうだれでも知っているが、擦文土器という言葉はなじみが薄いであろう。擦文土器はまだ日本史の教科書にも出てこないし、日本考古学の概説書にも記載は少ない。その文化に関しても同様だ。』

擦文文化というのは、北海道在来の文化に東北地方から北上した大和の文化が接して生まれた文化で、そこに生じた土器が擦文土器だ。

褐色でカメ形が多く、器面には擦痕が著しい。また平行線文、斜交文、アヤスギ文などが口縁から胸部にかけて刻まれている。

このような土器は北海道、北部東北地方に広く分布し、その用いられた時代は、およそ奈良時代から鎌倉、室町時代と考えられている。

ところで、日本史上に大和



の力に抵抗した古代蝦夷が、あるときは東北古代史の主役として現れるが、その実体は不明な点が多い。また蝦夷と関係のあるアイヌの歴史も謎に満ちている。

この蝦夷やアイヌの文化に對して擦文文化は、地域的にも年代的にも密接な関連性がありそうだと。したがって、擦文文化が明らかにされれば、蝦夷やアイヌの文化もまたはつきりしてくるのではなからうか。

擦文土器は蝦夷が使った土器だといえます。県内でも擦文土器はあまり出ていません。

ところが、わが村からは大量に出土するのです。

このことはわが村が、蝦夷国において中心的な場所であることを示していると思われる。写真の擦文土器は、平安時代十世紀ごろと推定されています。

○前月号までの「蓬田城址を訪ねて」のシリーズは、今回から「郷土の歴史」としてスタートします。

投稿「映画」

★ひとり居て思はず声をあげたりし 土曜ロードショウは「望郷」とあれば靴ぬぎで恋しき人を追いて行く あー「モロッコ」よ風吹きすさぶ

★幾日経ても落葉の音のたゆたえる ツルゲイネフの「初恋」をみし

★さらさらしく吹雪のあとのシベリアの バラライか鳴る「ラーラのテーマ」

★冴えかえる夜のモスクワでモ隊の 雪はきしみて「ドクトル・ジバゴ」

★映画みしほつりを胸に二人して 夜の舗道を歩みたきかな

★昂ぶりと時計の音の耳に冴え 「歴史の涙」遙かなる日よ

◎みなさまのお便りや作品を係までお寄せください。

役場総務課・広報係

昭和55年度農作業協定賃金

区画	20a以上	10a~20a未満	10a未満	備考
耕作種類				
耕起	3,800 円	4,180 円	4,370 円	
代掻	4,300	4,730	4,945	
荒代	2,300	2,530	2,645	
植代	3,100	3,410	3,565	
改良資材散布	500	550	575	
肥料資材散布	500	550	575	
田植	5,600	6,160	6,440	
除草剤散布	500	550	575	■蓬田村農業委員会 ■蓬田村農業機械化銀行
病虫害防除	500	550	575	
刈り取り・脱穀	13,500	14,850	15,525	
生もみ乾燥	7,000			
半乾燥	4,500			水分17%以下
育苗	500			1箱当り
人夫賃	4,000			



戸籍の窓



(蓬田村の人口:4,550人)

3月受付分

◎お誕生おめでとうございます

- 青木 一史 (竹男・長男)
- 越田 幸夫 (義寛・2男)
- 木村 紀光 (正毅・2男)
- 金谷ひとみ (輝治・2女)

◎ご結婚おめでとうございます

- (下山 繁雄 (長科))
- (松山 律子 (青森市))
- (張間 清孝 (蓬田))
- (山下 ゆき子 (鯉ヶ沢町))
- (大同 正和 (京都府))
- (坂本 八重子 (中沢))
- (菅野 春男 (東京都))
- (小松 美保子 (蓬田))
- (松貝 晃 (埼玉県))
- (工藤 邦子 (中沢))
- (村上 新吉 (蓬田))
- (志水 美澄 (長崎県))
- (佐々木敏憲 (長科))
- (相坂多恵子 (青森市))

◎お悔み申しあげます

- 佐井 トミ (78歳・広瀬)
- 久慈 兼松 (78歳・広瀬)
- 久慈 じん (90歳・瀬辺地)
- 加賀美 トモ (77歳・蓬田)
- 福浦 善作 (78歳・広瀬)

●お便り 紹介

“折りづる”ありがとう

毎日の運転が忙しく先般頂いた“折りづる”と鈴のお礼が遅れ申し訳ありません。

おかげさまで私は朝六時から、毎日ダンブを運転して働いています。あまりにも車が多

くて、それでも十分気をつけて決して事故は起こさないよう運転しています。

車の中の鈴もカランカランと鳴ってくれます。そのたび広瀬の皆さんが心をこめてつくってくれた、折りづると鈴が見えます。

広瀬母親クラブの皆さんも子どもたちが、車の前を歩かないように、走らないように

注意してください。竜飛の方に砂を運んだり、県内一円を走りますが、私も安全運転をします。

母親クラブの皆さん、子ども会の皆さん元気でお願いします。



あ と が き

4月には、春の交通安全運動がくり広げられました。今回の運動は特に、新入学児童や園児を中心とした子どもと老人を、交通事故から守ることをスローガンとしています。

わが村でも、交通安全母の会が小学校の入学式で安全の呼びかけをしたり、あらゆる機関や団体が趣向をこらして、運動を展開しました。今回はその中のひとつで、広瀬子ども会と母親クラブが共同で実施した。折りづる交通安全運動を紹介しました。

みなさまの広報に対するご意見、ご要望を係までお寄せください。